認知科学 第 30 巻 第 1 号 (2023) p. 103　https://doi.org/10.11225/cs.2022.066
Cognitive Studies: Bulletin of the Japanese Cognitive Science Society, Vol. 30, No. 1, p. 103

日本認知科学会第 39 回大会（2022 年度）

JCSS 2022 大会発表賞の選定について

第 39 回大会プログラム委員長　本田 秀仁

日本認知科学会では，毎年の大会において優れた発表を行った若手研究者に大会発表賞を授与しています．発表者が今大会の大会発表賞の対象となる条件は以下のようになっておりました．

条件 1： 本学会会員（正会員・学生会員）である．
条件 2： 生年が 1989 年以降であるか，または学生会員である．
条件 3： 所定の大会発表手続きが済んでいる．
条件 4： 第 1 著者である．

以上の条件の下で，今大会の審査対象者の発表は口頭発表 9 件，ポスター発表 37 件，オーガナイズドセッション 3 件，合計 49 件となりました．

今大会の選考は以下のような手続きで行いました．まず参加者の投票結果（大会終了後，学会賞として推薦したいと思う発表者の発表について，10 件を上限として投票いただきました）を参考に，審議対象とする発表を絞りました．次に，審議対象となった発表について，当日の発表内容，Slack 上での質疑内容，また予稿集の内容に基づいてプログラム委員で審議をしました．最終的に，以下の 3 件の発表の第 1 著者に大会発表賞を授与することになりました．

【大会発表賞】

- 李 璐（東京大学）
  ［O2-001A］不気味の谷現象に関する自閉スペクトラム症者と定型発達者の比較：カテゴリー知覚からの検討
- 晴木 祐助（北海道大学）
  ［O3-003A］胃と心臓の内受容感覚に関わる個人差とその脳内ネットワークの差異：fMRI 研究
- 今井 健人（名古屋市立大学）
  ［P2-058A］「Slime Hand」における主観的な皮膚伸長距離の同定

今大会では 2019 年大会以来の対面開催を目指して準備を進めてきました．しかし，7 月上旬からの新型コロナウイルスの蔓延状況から，対面開催時のリスクを考慮し，全面オンライン開催に変更となりました．2021 年の 12 月からプログラム委員会の活動が始まり，以降は対面開催を前提に（というより，そのことしか考えておりませんでした）準備を進めておりました．そういう意味では，今回の変更は私自身，非常に残念な思いで一杯でした．

今大会を含めた過去 3 大会は空間の制約を越えて大会をどのように開催しないといけないのかという大きな問題に直面しました．過去 2 大会の運営に携わった先生方は過去の経験や知恵を活かせず，様々な苦慮や葛藤も生じる状況で奮闘し準備を進めてきたであろうことが，過去 2 大会の経験と知恵を参考にさせていただきながら今大会の準備を進める中で非常によく理解ができました．本当に頭が下がる思いです．

現在，世の中はウィズコロナの流れになっており，学会運営もオンラインの形を残しつつ，対面形式を取るところが増えています．今後，大会はどのような形で開催されるのがデフォルトになるのか非常に気になるところです．オンラインのよい部分を残しつつ，新たな学会の形が作られていくというのが理想であると個人的には思っております．しかし海外の学会では完全現地開催になっているものもあり，コロナ前の形に戻るという可能性もゼロではないのかも知れません．完全オンラインという形式の大会があったという事実を忘れることなく，今後の推移を見守っていきたいと思っています．

最後になりますが，今大会のプログラムにご協力くださったすべての方々にお礼申し上げます．また，私の拙いマネジメントながら，いつも暖かく委員会活動を支えてくださったプログラム委員の先生方には心より感謝申し上げます．

　© 2023 Japanese Cognitive Science Society　